

これがオススメ！ 読み聞かせ本

高学年向き

学習指導要領で読み聞かせがすすめられて、読み聞かせについてのたくさんのお本が出版されています。また、ブックリストもたくさん出ていますが、さて実際に子どもたちに読もうと思うと、どの本がいいのか、どうやって読んであげたらいいのか、困ってしまいます。「これなら楽しく読み聞かせができるよ」という本と読み方を紹介しましょう。

「マジノマジヒコ氏」という、姿かたちから生活リズムまでキツキツと硬い紳士が、時間を間違え夜中に目覚めて自分にそっくりな「家オバケ氏」と出会ったことから物語が始まります。二人の間に思いやりが芽生え世界が広がっていく過程が何とも言えずおもしろく、子どもたちの共感を呼んだ本でした。

この本を知ったきっかけは、当時6年のクラスにこの本の大ファンがいたことです。「この本すめめす」コーナーで熱烈に薦めていたので読んでみたところ、ユーモアあり不思議あり、また挿し絵の雰囲気もユニークで、子どもたちへの読み語りを行ってみようと始めました。今では木村学級の定番となりました。

（写真の感想）

W・紳士とオバケ氏が真夜中にチェスをしたり本や映画をすす

め合ったりと魅力的でした。

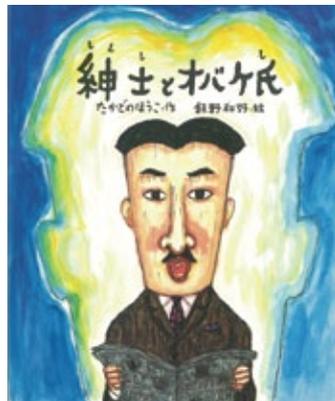
N・紳士のおじいさんの「何事も夢中になるな」という言葉が「確かに」とも思った。

T・紳士とオバケ氏が逆になつて仕事に行ったりするところがワクワクしました。

K・先生のオバケの声やしゃべり方がユニークでおもしろく、また読んでほしいです。

（ブカインと空中に浮いたりするオバケをイメージしながら読んだ声、「マジヒコ氏」はその名の通り「マジメ」に読んだ結果が子どもたちの感想として大きく返ってきました

この本をきっかけにクラスでチェスが流行り放課後対戦する子や、主人公たちが交換して読書した『シキル博士とハイド氏』の本を読んでみた子もいました。クラスの文化を広げるきっかけも作ってくれました。



紳士とオバケ氏

たかどのほうこ／作 飯野 和好／絵
(フレーベル館)